

2022YOSAKOIソーラン祭り参加者フォーラムin旭川 開催報告書

【開催結果】

日程：2022年10月1日（土）

13:00～13:15 開会式
13:15～14:15 基調講演Ⅰ
14:25～15:10 基調講演Ⅱ
15:20～17:00 グループディスカッション
17:10～18:00 分科会報告・閉会式

会場：ベルクラシック旭川

主催：一般社団法人YOSAKOIソーラン祭り組織委員会 上川中央支部
一般社団法人YOSAKOIソーラン祭り組織委員会

主管：「2022YOSAKOIソーラン祭り参加者フォーラムin旭川」実行委員会

参加者：68団体 190名（スタッフ含む）

【開催テーマ】「～新たな舞台の開幕 そして 新たな未来の創造～」

新型コロナウイルス感染症への対応により、2020年・2021年の2年間YOSAKOIソーラン祭りが中止されましたが、本年2022年には、第31回YOSAKOIソーラン祭りが再開されました。この間、組織委員会及び各チームの方々にとっては、祭りの存続やチームの存続に関わり、多くの困難があったと推察されます。

今回のフォーラムは旭川市で開催されます。旭川を流れる川の数約170、架かる橋は700あると言われています。「川のまち」と呼ばれる旭川市は「橋のまち」でもあります。橋が架かることによって地域と地域がつながって絆が深まるように、このフォーラムが「今年のYOSAKOIソーラン祭り」とこれからの「新たなYOSAKOIソーラン祭り」をつなぎ、共に創り出す「架け橋」となることを切に願っています。

3年ぶりの開催となる今年の参加者フォーラムは、上川中央支部で開催しました。例年は1泊2日で交流会なども行いますが、今年は新型コロナウイルス感染症対策のため日帰り・飲食無しの形式で実施。この2年間で、祭りやチームの状況も大きく変わりました。チームの課題や祭りの未来について、参加者全員が真剣に話し合い、あらためてチームや祭りへの想いを強くした一日となりました。



基調公演Ⅰ 「北海道ボールパーク Fビレッジが目指す街づくり」

《講師》 株式会社ファイターズ スポーツ&エンターテインメント
事業統轄本部事業企画部 副部長 大澤 朋陸 氏

北海道日本ハムファイターズの新球場と周辺エリアを含め2023年に北広島市で開業する「北海道ボールパークFビレッジ」。そのプロジェクトを推進する大澤氏を講師としてお招きし、写真事業を手掛ける「株式会社フォトクリエイト」の代表取締役社長を務めた大澤氏自身のこれまでの経験から、ボールパークが掲げる理念・ビジョンについてお話いただきました。

ボールパークが目指すのは様々な人・地域・企業とつくりあげる「共同創造空間」。そして、あらゆる年代が集まり、つながり、元気になるような「PLAY HUMAN」というテーマを掲げていることなど、まさに北海道で人や地域がつながるコミュニティとなっているYOSAKOIソーランチームにとっても共感することが多く、参加者も多くの刺激を受けました。新たなボールパークへのワクワクが大きく膨らむとともに、改めて自分たちの活動やコミュニティについて考えるきっかけとなりました。



基調公演Ⅱ 「30周年を経て これからのYOSAKOIソーラン祭りについて」

参加者の皆さんが祭りについて考えるための材料として、YOSAKOIソーラン祭り組織委員会より、YOSAKOIソーラン祭りの現状とこれからのYOSAKOIソーラン祭りについてお話ししました。

まず初めに、2019年の函館フォーラムの基調講演のおさらいとして、コロナ前までのYOSAKOIソーラン祭りについて、祭りの変遷や収支などの現状を解説。そしてコロナ禍で中止となった2020・2021年の活動を振り返るとともに、2022年・第31回本祭についても改めて報告しました。

これからのYOSAKOIソーラン祭りについては、この祭りが続いていくために、「より地域に受け入れられること」「参加者を増やすこと」そのために私たちが何をしていけばいいのか、大きな方向性と課題を投げかけました。また、そのために来年の第32回から取り組むいくつかの方向性についても紹介し、参加者のみなさんと今後のビジョンを共有しました。

(※詳細はレポートの後半に記載)

分科会 「TO THE NEXT STAGE ～改めてYOSAKOIソーラン祭りとは～」

【分科会①】 チーム運営 ～あなたのチームのあれこれ教えて～

【分科会②】 私たちの2年間 ～コロナ禍での思いと活動～

【分科会③】 YOSAKOIソーランの魅力伝えるために ～私たちにできること～

分科会では3つのテーマを設け、グループディスカッションを実施しました。コロナ禍での2年間を経て、チームや祭りを取り巻く状況が変わる中、チーム運営に関する課題や2年間をどう過ごしてきたかの苦労・工夫を話し合ったり、これからの祭りを語ったり、少人数でのディスカッションで、じっくりと語り合うことができました。

※各ディスカッションの報告はレポートの後半に記載



【基調講演II】30年を経て これからのYOSAKOIソーラン祭りについて

YOSAKOIソーラン祭りの現状と、これからのビジョンについて、2019年函館フォーラムでの発表内容も含め解説。このフォーラムで、参加者の皆さんがこれからの祭りについて考えるための材料を提示しました。

◆これまでのYOSAKOIソーラン祭り(函館フォーラム振り返り)

- 第5回頃からチーム数の急激な増加 第8回(1999年)には300チーム超え ピークは第10回の408チーム
その後、チームの人数規制ルール設定などから300チーム前後で推移・減少、第20回頃からは270～280チーム程度でほぼ横ばい
- テレビ在札各局が揃って放送し始めたのはすでに300チームを超えていた第9回頃から
⇒普及振興の課題を考える際、「テレビ放送が少なくなった」「放送が増えればチームも増える」という声があるが・・・
× たくさん放送してくれたら普及振興になった ○ たくさんチームが増えたから放送してくれるようになった では？
⇒ではなぜ、第1回目から7, 8回目までの参加者は、テレビ放送がたくさんあるわけでもないのに、コンテストも今ほどレベルが高くないのに、参加したのか？
- YOSAKOIソーラン祭りの年間 収入・支出について分類・割合を紹介
課題 収入が企業からの協賛金収入に偏っている / 広く多くの方から応援してもらえる体制づくり
大企業からの協賛金だけに頼らない収入(例: 10,000円×10,000人=1億円)
地域会場の存続について 以前30前後あった会場数は19会場に
- YOSAKOIソーラン祭りの広がり
× YOSAKOIソーランが衰退 ○ 時代とともにYOSAKOIソーランの価値の変化
絆・減災・コミュニティの再構築・地域文化の保存・交流手段・出会い・北海道を代表するパフォーマンス など

◆コロナ禍のYOSAKOIソーラン祭り・祭りの現在地

- 2020年・第29回、2021年・第30回 本祭中止
- 本祭時期の「virtualYOSAKOIソーラン祭り」や「YOSAKOIソーランスーパーLIVE」などの企画
- 冬の「EXPO」(2020-2021)、「冬のYOSAKOIソーランイベント」(元氣文化祭やキャラバンなど・2021-2022)
- 第31回YOSAKOIソーラン祭り (映像参加・サテライト・ライト参加)
チーム数・観客数は約6～7割、会場数は約半数に

◆これからのYOSAKOIソーラン祭りについて

- YOSAKOIソーラン祭りを継続していくための課題
 - ①より地域に根差し地域のための祭りとなること
市民理解⇒会場の継続や観客動員数の増加、応援企業の増加など
 - ②参加者を増やすこと
参加者増加⇒チームの存続、および市民理解の促進
⇒地域社会の課題解決に向き合い YOSAKOIソーラン祭りの強みを生かしつつ長期的な地域との共生を目指す
- 第32回本祭に向けて
 - ・人数が少ないチームのフォローとして、参加費の見直し、ライト参加などの参加枠組み拡充に着手
 - ・他分野からのYOSAKOIソーラン新規参加者を掘り起こすための企画チーム創設
 - ・参加費収入の減少を費用圧縮で押さえる
- 中長期的普及振興として
 - ・札幌市外(特に遠方)チームの存続支援について
支部大会の開催できない地域への演舞機会の創出／支部大会への本祭入賞チームの派遣
 - ・小中学校への演舞指導を教育委員会等を通して積極的に実施
- 安定的開催のために
 - ・栈敷席でのチケット販売収入強化(付加価値をつけるなど)
 - ・北のふーどパークのような関連事業による収入増へ
 - ・コンテンツライツの強化
演舞映像の収益化について取り締まり強化／企業等のイベントでのコンテンツ利用料の徴収
演舞依頼受託事業の強化

**YOSAKOIソーラン祭りは、北海道を代表するイベントで唯一、
「参加する人」たちが今回のフォーラムのように話し合うことができる祭りです。
これからも北海道の「祭り」を北海道の人たちの手で。**

【分科会1】 チーム運営 ～あなたのチームのあれこれ教えて～

【内容】

各チームが抱える現状や悩みについて話し合いました。社会人チームや学生チーム、ファミリーチームなどの構成の違いや、新チームと長年続けているチームなど、抱えている課題はそれぞれ。様々なチームの手法やリーダーごとの考え方を学びました。

グループごとに行った議論について、主な内容の一部を紹介します。

【チームの抱える悩み・課題】

- モチベーションの維持がむずかしい
- コロナ禍で世代が変わってしまい、チーム運営の手法や練習方法などが継承されていない
- メンバーが減少してしまった
- 練習場所の確保が難しい
- 活動費用の確保について・メンバーの負担について

【モチベーションについて】

〈メンバー〉

- ほかのチームと合同で練習することで刺激をもらった
- チーム内のコミュニケーションのため、YOSAKOI以外のレクや遊びをする
- 老人ホームなどに慰問すると、すごく喜んでくれて自分たちの価値を感じられた
- メンバーの温度差は無理に埋めようとせず、居心地のよい場所をつくるようにした
- 練習や活動に集まったメンバーに感謝を伝える

〈リーダー〉

- やらなければならないことが義務になるとつらいが、やってきたことが間違いでなかったと感じる瞬間・感謝したり感謝されたりする瞬間がある
- チーム内外の人とのつながりに助けられる

【練習方法について】

- ファミリーチームは、練習前に遊びを入れたりして子供の集中力を持続させている
- 子供たちは大人ほど集中力が続かないので、時間を短くしたり、子供だけのパートをつくったりする
- 少人数に分けて練習する(練習場所の問題やコロナ対策のため)
- YOSAKOI以外のジャンルのダンスのなども練習にとりいれ、表現の幅を広げる
- 結婚や出産でYOSAKOIを離れる世代も多い。土日は午前中に練習を設定し、子供をつれてきてもらう。メンバー内で1, 2名子供を見ている担当をつける

【メンバー確保について】

- SNSを活用・まずはチームを知ってもらう。DMも活用。文字だけでなく画像や動画をつかう。
- 家族ごと勧誘することで親と子どもどちらもメンバーに。子供がやめても親がチームに残ることも。
- やめる人よりも、チームにいるメンバーを大切にする。引き留めるのにパワーをかけるよりもみんなの士気もあがる。
- 練習の負担などをなるべくなくし、来たいときにくるようにしている。離れても、戻ってきやすいチームづくり
- 踊り以外のパート(旗や楽器)などで居場所をつくる
- YOSAKOI以外の切り口(スポーツやレクなど)で集める

【コロナ禍での活動について】

- 映像作品を作成し、新しいYOSAKOIのスタイルになると感じた
- トレーニングやパート練習を増やした
- まったく活動がなくなるとモチベーションが続かないので、少人数での練習でも、週1回は活動するようにした
- 自分のチームの事だけでなく、チーム同士の横のつながりが重要と感じた

【費用確保について】

- メンバーからの会費のほか、練習会場代は別途集めたり、チームグッズを販売するなどで費用を捻出
- 地元の一次産業をメンバー皆で手伝ったりすることで費用を捻出

忌憚のないたくさんのご意見ありがとうございました。今後、フォーラム以外の場所でも議論や情報交換をしていければと思います。

2022YOSAKOIソーラン祭り参加者フォーラムin旭川 分科会レポート

【分科会2】 私たちの2年間 ～コロナ禍での思いと活動～

【内容】

コロナ禍での2年間、どんな思いでそれぞれのチームが活動してきたのか、話し合いました。今年本祭に参加したチームも、そうでないチームも、2年間の想いや活動を伝え合うことで、今後のチーム活動へのヒントを得たり、気づきを共有しました。

グループごとに行った議論について、主な内容の一部を紹介します。

【各チームの2年間について】

- リモートによる練習が多かった(活用できたというチームも、限界を感じるというチームも)
- 少人数のため練習はできていたが、披露の場がなくモチベーションの維持が難しかった
- 練習場所が使えなくなり、活動したくてもできなかった
- 職業上コロナを理由に辞める人もいたし、メンバーの気持ちがすれ違い、人数が減少した
- 本祭があるのか、ないのか分からないのがつらかった。リーダーとしては準備しなければならない。
- 一切の活動を休止し、それぞれの生活や楽しみ方をしていった。YOSAKOIへのモチベーションはなかった。

【チームの課題について】

- メンバー間のモチベーションの差をどう埋めるのか
- メンバー確保について
- 中止にともなう会費の取り扱いなどに苦労した。また、活動費用の捻出が難しい

【コロナ過での活動でよかったこと・工夫したこと】

- YOSAKOIソーランを止めないよう、とにかくチーム活動をつづけた
- スタッフ以外のメンバーも巻き込み作品作りにかかわる(メイクやかけ声、衣装づくりなど)ことで気持ちをつくった
- 踊れないなかでもこのチームにいたいと思わせる新しい価値観をつくるチャンスととらえ、皆で楽しいことを探った
- 今いるメンバーとのコミュニケーションを見直し、大切にしたい
- 集まって練習ができるようになった際、メンバーの顔をみてとてもパワーをもらった。
- 集まれる喜び・お客さんの前で踊る喜びを再認識した
- レクレーションなど、メンバーが楽しく活動することに重点を置いた
- 本祭未経験者には、他のチームの動画を一緒に観てYOSAKOIの面白さや本祭の魅力を伝えた
- もともと交流があったチームと合併した
- 過去のチーム作品を踊り繋ぐ映像をつくったりするなど、企画をつくって実践した
- 過去の曲を利用したストレッチなどを実施。練習のマンネリ化を防いだ
- 祭りが開催されることの価値を改めて感じた

【これからの活動について】

- モチベーション=イベントにとらわれず、自分たちでイベントをつくったり、チームの人間関係とつなげてはどうか
- YOSAKOIを楽しむ人との交流を続けることが、大切な気づきや原動力になる
- 親子での参加を促したり、学生チームから社会人チームへの移行を増やしたい
- 動画などを活用し、チームを知ってもらうための活動を積極的にしたい

忌憚のないたくさんのご意見ありがとうございました。今後、フォーラム以外の場所でも議論や情報交換をしていければと思います。

【分科会3】YOSAKOIソーランの魅力伝えるために ～私たちにできること～

【内容】

祭りやチームが盛り上がるために、どうやってこの魅力を伝えていけばいいのか。現在の各チームの活動を振り返りながら、どんなことができるのか、また祭りがどんな姿になればいいのか、意見交換をしました。

グループごとに行った議論について、主な内容の一部を紹介します。

【これまでのチームでの取り組み】

- 福祉施設への慰問や地域イベントへの出演
- お祭りやイベントの運営に携わり、その経験を様々な人に共有する
- 地元の学校へ演舞を教えにいたり、地域の活動に積極的に参加

【魅力の発信】

《参加者を増やすには》

- まずはチームを魅力あるチームにすること。チーム自体に魅力がないと巻き込めない。第三者目線で磨く。
- チームの魅力として、チーム内での運動会やレクで一体感をつくっている
- 外への発信の前に、まずはチームメンバーに魅力を伝える必要がある。
- 結婚して里帰りしたOB・OGに復帰してもらう(子供も一緒に)
- 本祭があったことで、終了後にメンバーが増えた。リアルに見てもらうことが重要。
- 地域で行われているイベントに興味をもってもらう。本祭では意外とメンバーは増えない。
- SNSなどの発信と、リアルを組み合わせた工夫を
- 体操教室のようにYOSAKOI教室をつくりこどもたちにはいってもらう
- チームの在り方もかわっている。いろいろな人を受け入れる体制を整えることが大切
- 実際に参加することの楽しさに触れてもらう。踊り子ではなく、演出や裏方でも、祭りの熱に触れて「やりたい！」となる人はいる
- 衣装や小道具など、見た目から興味を持ってもらえるような魅力あるものにする
- 絵師やカメラマンなどを募集することで新しいつながりの可能性が生まれる

《地域での活動について》

- 遠方へ行けない人のためにも、地元で演舞を披露する機会を増やす
- 地域の人に、YOSAKOIソーランの活動が一年中あることを知ってもらうことが必要
- YOSAKOIを知っている人と知らない人との差が大きい。地域の祭りなどでYOSAKOIを通して広い世代が触れ合う機会があるとよい
- 今年夏にはチームが地元で祭りを主催した。地域の反応もよく、新たにメンバーになった人もいる。

【これから】

- チームで主催して祭りをつくりたい
- チームの無い地域を減らしていき、踊りたい人はいつでも入れるという環境づくりができるとよい。
さらに、チームが複数あって自分の毛色にあったチームを選べるとよい。
- YOSAKOI以外のイベントでボランティアとして手伝い、横のつながりをつくる
- 地域でのボランティアについて、積極的に発信する
- 以前はチーム同士やチーム内でも対立していたが、今はチーム同士が協力して祭りを盛り上げようとしている。
- 今は踊りのレベルがとても上がっている。上手くなりすぎて、とっつきにくい。これは課題として解決したい。
- 「続けていくこと」「地域へのアピール」「リアルで見せること」それぞれを、チームや参加者が協力して頑張りたい

忌憚のないたくさんのご意見ありがとうございました。今後、フォーラム以外の場所でも議論や情報交換をしていければと思います。